

蚕糸情勢と施策

農林水産省農蚕園芸局 繭糸課長 副 島 映 一

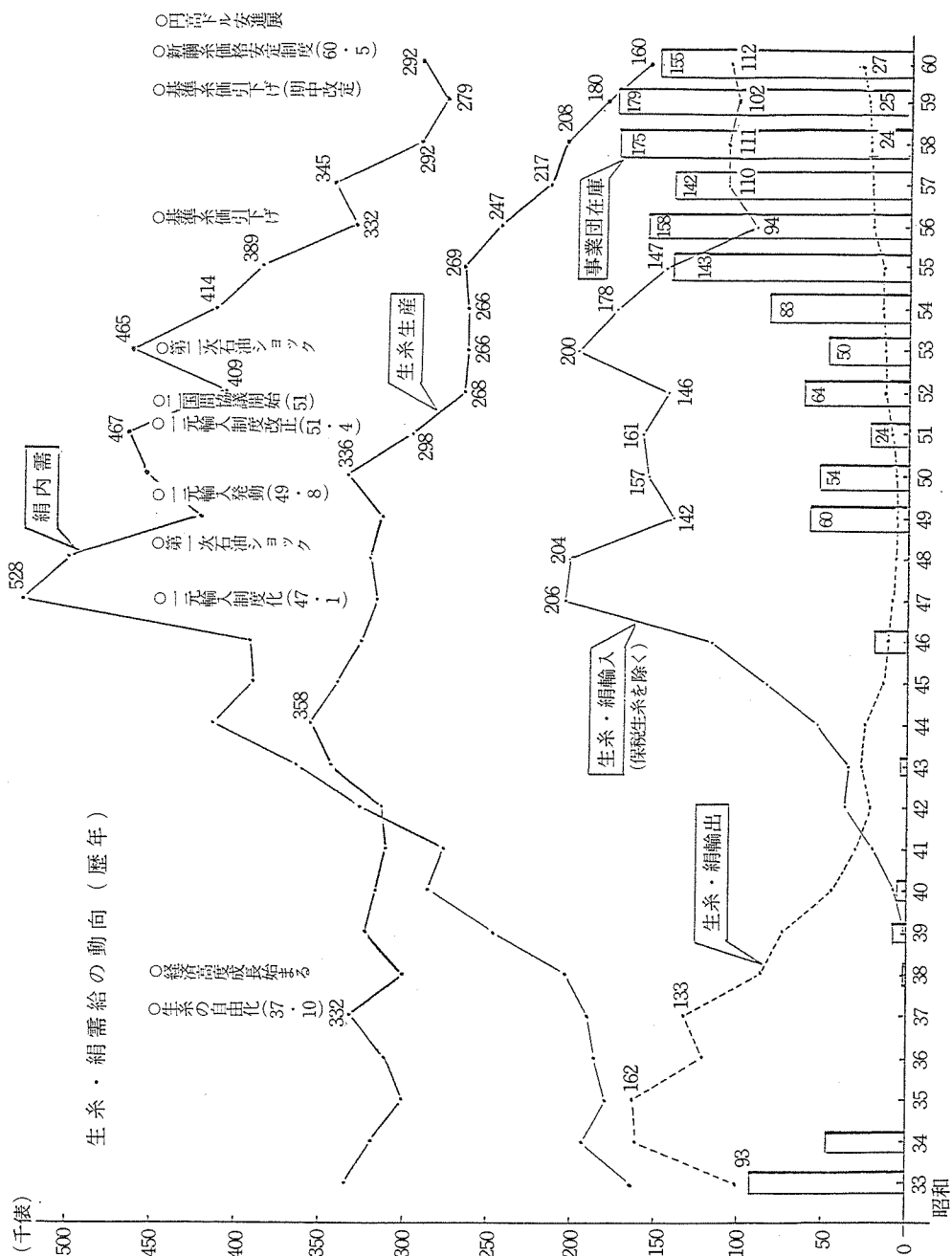
◎ 絹 の 需 給

(単位：千俵)

(単位：千円)

項目 会計年度	内 需	生 糸 生 産	輸 入 (保税分を除く) 計	生 糸 (保税分外枠)		在 庫			繭 生 産 (糸繭) 千 ト ン
				生 糸	絹糸・絹織物 二 次 製 品	計	一 般	事業団	
昭和50年度	454	327	165	31〔 5〕	134	280	245	35	90
51	465	289	174	50〔 9〕	124	275	238	37	87
52	419	267	146	44〔11〕	102	265	209	56	79
53	459	266	192	63〔12〕	130	262	210	52	77
54	404	267	170	42〔13〕	128	292	201	90	81
55	362	262	138	33〔10〕	105	324	177	148	72
56	356	244	94	2〔17〕	93	304	158	146	64
57	327	213	122	31〔17〕	91	307	157	150	63
58	289	198	106	12〔21〕	94	318	142	176	61
59	286	178	99	3〔22〕	96	307	136	171	50
60	280	151	125	15〔23〕	110	299	147	152	47

資料：農林水産省「生糸需給調査」、大蔵省「日本貿易月表」、通商産業省「繊維統計年報」等



◎ 生糸・玉糸消費の用途別割合

(単位：％)

	52年	53	54	55	56	57	58	59	60
白 生 地	58.8	61.6	61.9	62.1	60.0	61.0	57.2	56.8	57.0
先 染 着 尺	11.0	9.7	9.5	9.2	9.6	8.9	9.6	9.0	7.9
帯 地	16.9	14.6	13.9	14.5	15.3	14.7	15.5	15.3	14.8
和 装 小 物	1.9	1.9	2.1	2.0	2.0	2.2	2.2	2.3	2.6
(和装関係 小 計)	88.6	87.8	87.4	87.8	86.9	86.8	84.5	83.4	82.3
内 需 洋 装 用	2.7	3.2	3.4	3.4	4.1	4.4	3.5	3.9	4.0
洋 品 雑 貨	3.3	3.2	3.0	3.5	3.1	3.0	3.8	4.3	4.8
室 内 装 飾	0.8	0.7	0.8	0.8	0.7	0.8	0.7	0.6	0.6
そ の 他	2.6	2.6	2.7	2.1	2.3	2.1	2.2	2.2	2.2
輸 出 用	2.0	2.5	2.7	2.4	2.9	2.9	5.3	5.6	6.1
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

資料：蚕糸砂糖類価格安定事業団調査

◎ 着物の消費動向及び絹内需の予測

		絹 着 物 計 合 (万反)				絹 内 需 (千 俵)
		フォーマル 着 物	セミフォー マル着物	カジュアル 着 物		
実 績	48	331	276	1,435	2,042	483
	49	354	289	1,549	2,191	419
	50	293	292	1,466	2,052	454
	51	325	287	1,175	1,786	465
	52	276	256	1,032	1,564	419
	53	277	256	916	1,448	459
	54	287	247	873	1,406	404
	55	258	240	797	1,294	362
	56	250	232	718	1,200	356
	57	260	227	672	1,160	327
予 測	58	290	212	589	1,091	289
	64	268	191	228	688	218～232
予 測	70	256	175	178	609	209～231

注：昭和59年度農林水産省委託事業による民間調査機関予測

◎ 繭 生 産 の 動 向

項 目 暦 年	養蚕農家数	桑園面積	収 繭 量	1戸当たり 桑園面積	10a 当 たり 収 繭 量
昭和	千戸	千ha	千 t	a	kg
50年	248	151	91	61	70
51	225	143	88	64	71
52	203	136	79	67	69
53	187	130	78	69	70
54	176	125	81	71	75
55	166	121	73	73	69
56	150	117	65	78	65
57	139	113	63	81	65
58	128	109	61	85	67
59	114	105	50	92	60
60	100	97	47	97	62

(注) 10a 当たり収繭量は使用桑園面積当たりである。

◎ 養蚕農家の規模別割合の推移

掃立数 暦 年	10箱未満	10～20箱	20～30箱	30箱以上
昭和	%	%	%	%
50年	59	26	10	5
51	59	28	9	4
52	58	28	9	5
53	57	28	10	5
54	58	28	9	5
55	57	28	10	5
56	59	27	9	5
57	59	26	9	6
58	58	27	9	6
59	59	26	9	6
60	58	26	10	6

◎ 生糸生産の動向

項 目 曆 年		生 糸 生 産 量	製 糸 工 場 数
昭和		千俵	工場
	50年	336	429
	51	298	390
	52	268	350
	53	266	341
	54	266	318
	55	269	304
	56	247	271
	57	217	250
	58	208	228
	59	180	192
	60	160	171

◎ 製糸構造改善事業の概要（58～59年度）

		繰 糸 機 廃 棄		(参 考) 企 業 別 残 存 台 数
		台 数	率	
中 小 製 糸	全 廃	台 1,969	% 100	。器械製糸 7,845台
	縮 小	1,487	26	大 企 業 2,283
	計	3,456	45	中 小 企 業 5,562
				。国用製糸 1,220
大 製 糸		1,364	37	。玉糸製糸 466
				計 9,531
計		4,820	34	

資料：農林水産省農蚕園芸局調査

◎ 輸 入 数 量 の 動 向

(単位：千俵，%)

項目 会計年度	総 計		生 糸		絹 糸		絹織物		二次製品	
	保稅分 を除く。	割合	[保稅分外枠]	割 合		割 合		割 合		割 合
昭和51年度	174	100	50 [9]	29	49	28	55	32	20	11
52	146	100	44 [11]	30	27	18	53	36	22	15
53	192	100	63 [12]	33	38	20	67	35	24	13
54	170	100	42 [13]	25	34	20	65	38	30	18
55	138	100	33 [10]	24	30	22	56	41	19	14
56	94	100	2 [17]	2	19	20	53	56	20	21
57	122	100	31 [17]	25	14	11	56	46	22	18
58	106	100	12 [21]	11	16	15	52	49	25	24
59	99	100	3 [22]	4	18	18	50	51	28	28
60	125	100	15 [23]	12	19	15	52	42	39	31

資料：大蔵省「日本貿易月表」

世 界 の 絹 需 給 (1983年)

(単位：萬千トン，生糸(換算)千俵)

項目 国 名	繭 生 産		生 糸 生 産		輸 入			輸 出			絹 内 需	
		比 率 (%)		比 率 (%)	生 糸	絹織物等	計	生 糸	絹織物等	計		比 率 (%)
中 国	245	51	398	46	—	3	3	150	144	294	107	12
日 本	61	13	208	24	41	92	133	—	25	25	316	37
イ ン ド	72	15	93	11	4	—	4	—	21	21	76	9
ソ 連	53	11	64	7	17	0	17	—	—	—	81	9
韓 国	11	2	32	4	18	9	27	7	49	56	3	0
ブラジル	10	2	22	3	—	—	—	14	5	19	3	0
アメリカ	—	—	—	—	6	102	108	—	7	7	101	12
欧州5か国	0	0	0	0	75	49	124	1	48	49	75	9
そ の 他	28	6	46	5	33	135	168	22	91	113	101	12
合 計	480	100	863	100	194	390	584	194	390	584	863	100

(注) 絹織物等は，絹織物，絹糸及び二次製品である。

生糸・絹製品の二国間協議の概要

(単位：俵)

年 度		5 5	5 6	5 7	5 8	5 9	6 0	6 1
区 分	生 糸 (保税外枠)	15,000	11,500	10,700	10,000	59年～60年 17,500		
	絹 糸	4,000	4,000	4,000	4,000	3,800	3,800	
	絹 織 物	万㎡ 1,190	56年1月～58年3月 万㎡ 2,250		万㎡ 900	万㎡ 800	万㎡ 760	
	生 糸	11,130 ～ 13,660	56年～58年 16,400			59年～60年 12,500		
	絹 糸	8,400	6,300	6,300	6,000	6,000	6,000	
	絹 織 物	万㎡ 700	56年～57年 万㎡ 1,350		万㎡ 595	万㎡ 595	万㎡ 595	

◎ 生糸の内外価格差

(単位：円/kg)

	国 産 生 糸 (横浜現物)	リヨン取引価格	保 税 生 糸 (C I F価格)
昭和 5 1 年	1 2, 4 3 7	7, 3 5 5	8, 4 0 0
5 2	1 3, 1 6 4	7, 3 6 8	7, 2 0 0
5 3	1 4, 7 5 8	6, 1 7 8	6, 0 0 0
5 4	1 4, 8 2 5	8, 0 9 2	7, 2 0 0
5 5	1 4, 6 4 2	8, 9 4 4	8, 5 0 0
5 6	1 4, 2 4 1	7, 6 2 0	7, 1 0 0
5 7	1 4, 8 6 1	7, 9 0 0	6, 8 0 0
5 8	1 3, 9 1 1	7, 5 2 9	6, 7 0 0
5 9	1 3, 4 7 4	7, 3 8 0	6, 5 0 0
6 0	1 2, 3 6 5	7, 0 9 0	6, 2 0 0

資料：農林水産省農蚕園芸局調査
大蔵省「日本貿易月表」
蚕糸砂糖類価格安定事業団調査

昭和61年3月28日

農林水産大臣 羽 田 孜 殿

蚕糸業振興審議会会長

石 黒 武 重

諮問第21号の標準生糸の安定基準価格及び
安定上位価格並びに基準繭価についての答申

昭和61年3月28日付け諮問第21号をもって諮問のあった昭和61生糸年度に適用する標準生糸の安定基準価格及び安定上位価格並びに昭和61年5月21日から昭和62年5月20日までの期間に適用する基準繭価については、下記のとおり答申する。

記

最近における蚕糸・絹業の諸情勢にかんがみ、引き続き、需給の均衡を図ることが強く要請されている。

このような現況のもと、標準生糸の安定基準価格及び安定上位価格並びに基準繭価は、生産条件及び需給事情その他の経済事情を適正に勘案して算定された政府試算に基づき、前年度の水準に据え置くことはやむを得ない。

附 帯 決 議

政府は、今回の価格決定と併せて、今後、次の措置を適切に講じ、蚕糸・絹業の安定に努められたい。

- 1 我が国の蚕糸・絹業の健全な発展を図るため、繭糸価格安定制度の適正な運用を図ること。
- 2 絹織物、生糸等の輸入については、現下の厳しい需給事情にかんがみ、その抑制に最善の努力を払うこと。
- 3 関係業界の自主的活動と相まって、新規用途の開発・普及、中央・地方を通ずる需要増進活動の展開等により、生糸・絹需要の拡大を積極的に推進すること。
- 4 繭・生糸の生産については、需要動向に即したものとするとともに、各般の施策の適切な推進により蚕糸業の生産性の向上に努めること。

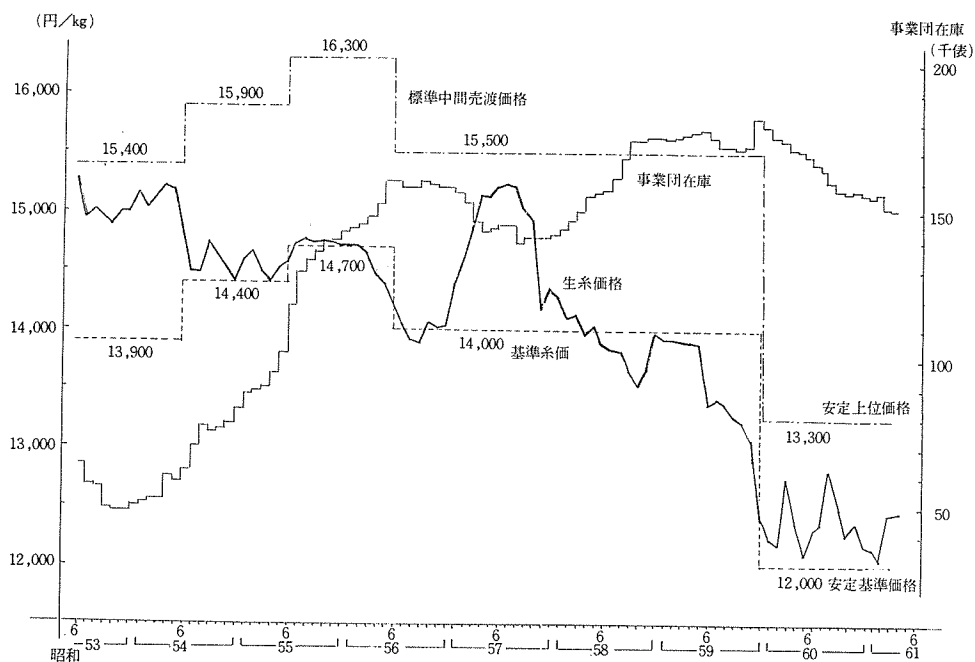
昭和61生糸年度に適用する安定帯価格

(単位：円/kg)

	昭和61生糸年度	現 行
安 定 基 準 価 格	12,000	12,000
安 定 上 位 価 格	13,300	13,300
基 準 繭 価	1,755	1,755

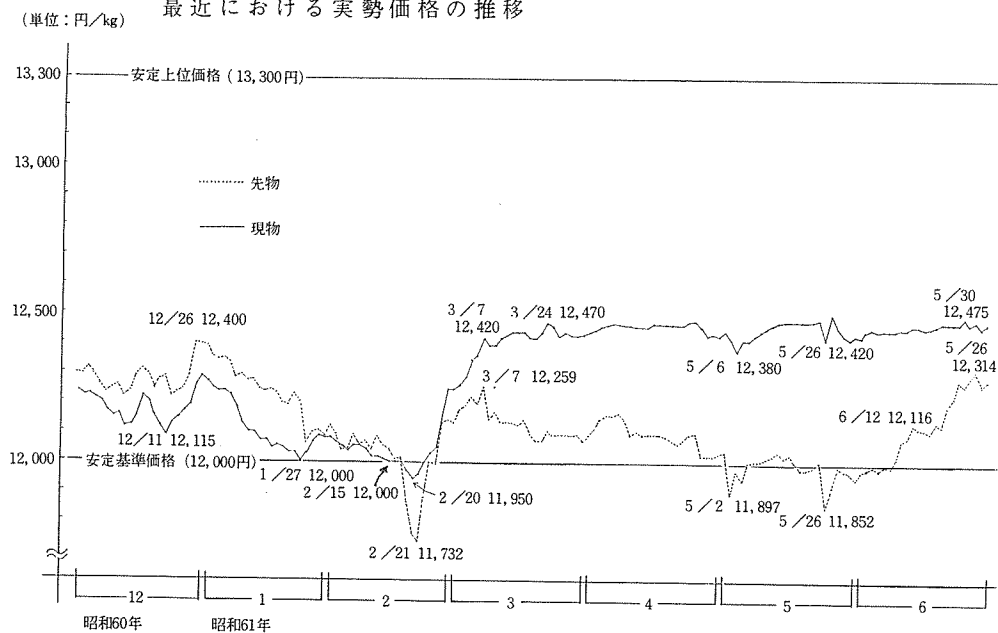
(注) 安定基準価格及び安定上位価格は、標準生糸(27中3A格)の価格であり、基準繭価は標準的な繭(生糸量歩合18.5%、繭格2等)の価格である。

生糸価格の推移



(注) 60年の法改正により行政価格名が変更された。

最近における実勢価格の推移



◎ 蚕糸砂糖類価格安定事業団の事業概況

生糸売買及び財政状況

(単位：千俵,億円)

項目 会計年度	輸 入 糸		国 産 糸		在 庫			借 入 金	当 期 損 益
	買 入	売 渡	買 入	売 渡	輸 入 糸	国 産 糸	合 計		
昭和 5 0年度	34	17	0	35	18	16	35	226	6
5 1	50	31	0	16	37	0	37	225	8
5 2	37	28	17	6	45	11	56	396	11
5 3	69	63	0	11	52	0	52	347	56
5 4	42	17	14	0	77	14	90	675	14
5 5	33	2	27	0	108	41	148	1,268	0
5 6	1	15	14	3	94	52	146	1,413	▲ 39
5 7	30	32	6	0	92	58	150	1,544	▲ 57 (▲ 43)
5 8	12	21	35	1	84	92	176	1,930	▲ 95 (▲ 138)
5 9	3	31	26	3	56	115	171	2,116	▲ 165 (▲ 303)
6 0	15	26	0	8	45	107	152	2,030	▲ (▲)
6 1 4~5	2	4	0	1	43	106	149	2,009	▲ (▲)

資料：蚕糸砂糖類価格安定事業団報告

(注) 当期損益欄の()内は、累積損失である。

「絹需要増進に関する当面の行動計画」に基づく行動内容

61. 6. 10

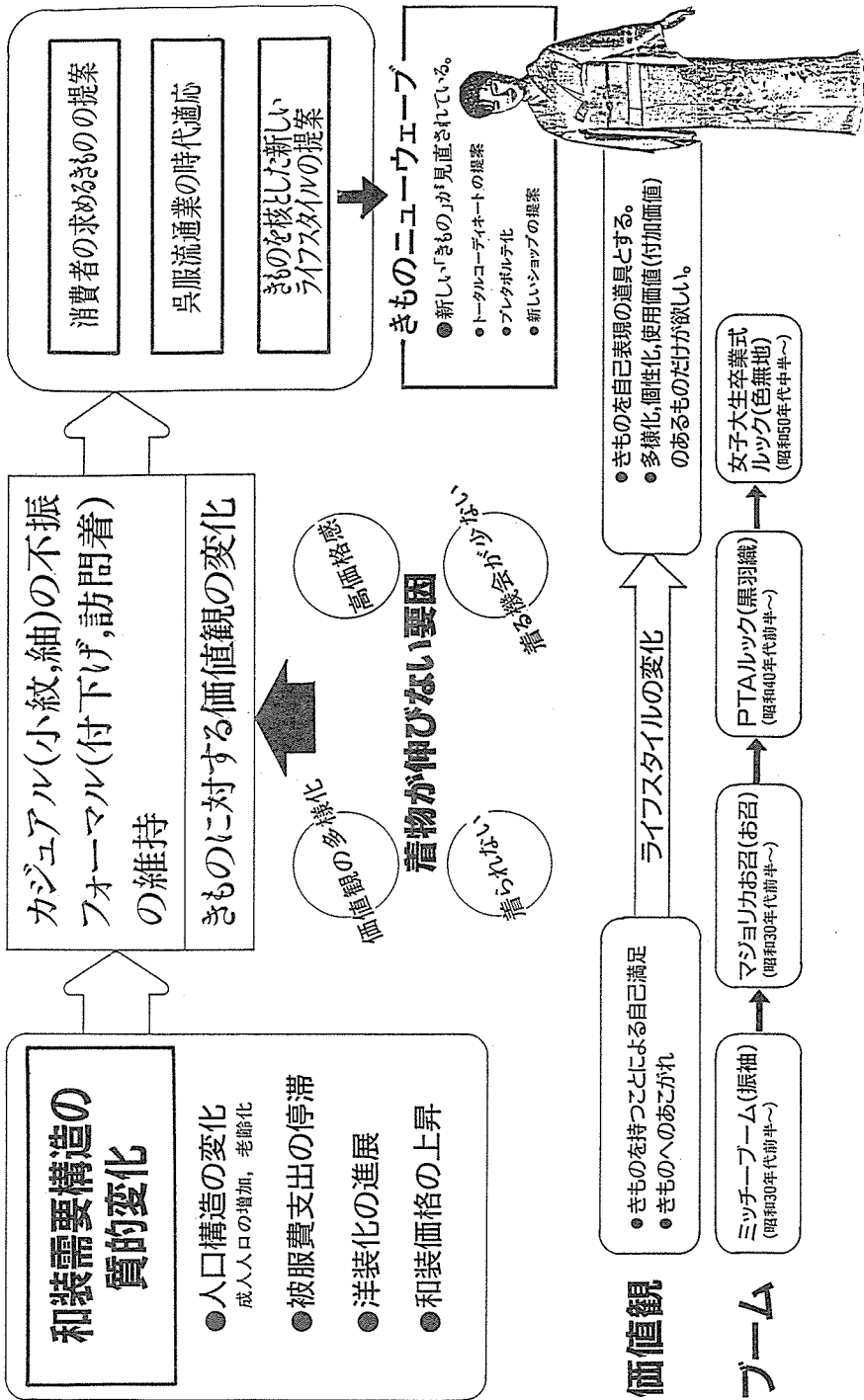
行 動 計 画	具 体 的 な 行 動 内 容
I. 消費者に対するシルクイメージの浸透 (1) シルクへの関心の喚起 - 新しいシルクのコンプレックスの策定 (①美しい ②感触がいい ③健康にいい) - カタログ, パンフレット等宣伝機材の思想統一, 反復宣伝 - マスコミへのアプローチ, 有名人による着用促進 - キャンペーンマークの制定 (2) 消費者が直接見て触れて着る機会の増大 - 常設展示場の充実, 人が集まるあらゆる機会を活用した展示会, イベントの開催 - 地方中核都市等全国各地における展示会, イベントの開催 - きものの着用機会づくり - きものに関する教育の推進	- パンフレット (シルクアットハート, シルクの知識, 絹のしおり, シルク Q & A) - 雑誌, テレビ等宣伝 - ニュースレター - 政府広報 (総理府, 農水省) - J S C ニュース - キャンペーンマーク, スローガンの設定 - 講習会等の開催 - J S C の一般・特別展示, グランマルシェ参加 (年 2 回) - シルク友の会 - デイリーシルク展 (60. 11.15~16 原宿) - 絹製品地方展示 (全国 16 県) - きものの集い (全国主要都市 39 ヶ所) - 簡易和装教育 (44 県 150 校 10,077 人) - 消費センターへのビデオ配布 (和装) - エルジャポン, 繊維新聞, テレビ朝日など - NHK (宮崎緑), TV 静岡のアナウンサーの和装着用, 真梨巴ケイのシルクニット製品着用, ダイアナ妃等 (総理府) テレビ, 女性雑誌など (農水省) テレビ (ふるさと探訪 a f f) - デイリーシルク展 (60. 11) で公表した。展示会パネル, パンプ, 名刺等に使用 5 回 (手芸 手入れ ファッション講座) - 地方マスコミとの提携 - 人数の拡大 (昭和 59 年 38 県 121 校 5,865 人) 150 センター

行 動 計 画		具 体 的 な 行 動 内 容	
(3) 戦略商品に重点をおいた運動の展開 - 製品の種類別に形成されているたてわり業界の活動の促進 ①ニット製品（アウター、インナー） ②スーツ、コート ③簡易和装	製品の種類別に、対象層を絞った宣伝活動	- シルクニット展（61.3.7～8 ハナエモリビル）パンフレット（シルクニット） - シルクセンセーション '86(61.2.20 銀座ソニービル）パンフレット（男のシルク） - きものモダン展(61.3.11～16 三越本店）パンフレット（きものモダン）	- シルクニット製品の需要拡大 - 男性対象のシルクファッション - きものニューウェーブの流れの中で注目を浴びる。
Ⅱ．流通、販売網の拡大・多様化 (1)シルク取扱店舗の拡大、販売ルートの多様化 - 絹製品を取り扱うデパート、専門店等の拡大 - カタログ販売、訪問販売における取扱いの促進 - 養蚕団体、製糸業界、織物業界等による販売活動の促進 (2)流通販売業界の活性化	- 首都圏デパートにおけるシルクフェアの開催（10月予定） - メーカーとタイアップしたシルク取扱促進活動の徹底的推進 - 販売促進マニュアルの作成 - 展示会、イベントの開催 - 業界の動向把握及び情報交流の推進 - 業界団体等による組織的活動の推進	- 関東及び関西の有名デパートと提携したシルクフェア（60.10）ポスター - 販路開拓実験調査 - マニュアルの作成（地方展示マニュアル、広報マニュアルなど） - 農村地域及び養蚕地域における展示会 - シルクコレクション(60.10 全養連) - シルクストッフ展(60.11 赤坂プリンスホテル) - 横浜デザイン会議(60.11 横浜) - 日本シルクニット協会（53社）	- 関東36店 関西19店(計19社 55店) - デパート店頭、雑誌(通信販売)による販路拡大実験 - 都道府県や関係団体への配布 - 全国の農村地域(全農)、養蚕地域(全養連)での展示会 - 和装業界は、全日本きもの振興会を中心に活動 - 洋装業界は、ジャパンシルクセンターを中心に活動

行 動 計 画		具 体 的 な 行 動 内 容	
(3)販売促進母体(拠点)の形成,強化 ◦ジャパンシルクセンターの機能強化 ◦県段階における需要増進推進協議会の結成等	◦和装業界と茶道,生花,民謡,舞踊,冠婚葬祭等関連業界との連携強化 ◦生産と販売と消費を結びつける情報センター機能,関連業界のコーディネート機能,物流の幹線機能の発揮	◦シルクスーツ振興会(18社) ◦シルクインテリア振興会(11社) ◦基金造成による活動基盤の充実 ◦県絹製品需要増進推進協議会の設立	◦趣味,おけいこ事との和装のつながりを推進 ◦人員増(1人)により機能発揮 ◦14県(61年は20数県の見込み) 蚕糸,絹業,行政,教育機関を結ぶ推進体制の整備
Ⅲ.生産の安定化・品質の改善 (1)シルク取扱いアパレルメーカー,テーラー等の拡大 ◦アパレルメーカーテーラー等における取扱いの促進	◦シルクスーツスタッフ展,シルクニット展等素材に関する展示会の開催	◦シルクセンセイション'86(昭和61年2月) ◦ニューヨーク絹織物展(昭和60年10月) ◦PEAK '86 S-S(京都プリント振興会 昭和60年10月) ◦シルクスタッフ展(昭和60年11月) ◦イデア京都シルク展(昭和60年12月) ◦丹後洋装素材展(昭和60年7月) ◦'86 AUTUMN & WINTER TEXPO NAGOYA CONVENTION(昭和61年3月)	◦日本絹業協会,全日本きもの振興会,各産地織物卸商業組合,呉専連等の活動推進

行 動 計 画	具 体 的 な 行 動 内 容
(2) 業界の活性化 ◦ 業界の活動の促進 ◦ 生地メーカー等における安定的生産体制 (3) 品質の改善・向上 ◦ 試験場、製糸業界、生地メーカー等における研究開発の促進 ◦ 消費者の要望に沿った良い品質、デザインの製品の生産促進	◦ 業界の動向把握及び情報交流の推進 ◦ 業界団体等による組織的活動の推進 ◦ 日本シルクニット協会、シルクスーツ振興会の活動促進 ◦ 洋装、インテリア等新製品開発向けの事業団在庫生糸の売渡し（新規用途等売渡し） ◦ 新形質生糸等の開発 ◦ 民間レベルでの新製品等の開発 ◦ シルクスーツ地製織のためのガイドライン（昭和60年10月1日 事業団シルクスーツ振興会） ◦ 全国絹白生地新商品求評会（昭和60年10月 京都）等の開催 ◦ シルクイベント開催によるファッションショウの開催（ディリーシルク展、シルクニット展） ◦ 丹後産地等の有名なデザイナーとの提携 ◦ 複合化技術 混織糸（複合繰糸生糸）、混紡糸、交撚糸、混紡織物、交織織物 ◦ 染色堅牢度、黄変防止、形状記憶糸、ウォッシュブルシルク、バイオ酵素精練 ◦ 消費者の意向のフィードバック、クレーム処理のシステムの確立 ◦ 全国各地における和装生地求評会の開催 ◦ デザイナーとの連携

和装シルクを取り巻く状況



洋装シルクを取り巻く状況

